

中 村 真（宇都宮大学国際学部長、国際学部教授）

皆さんおはようございます。本日は国際交流都市日光の再発見シンポジウムにご参加いただきありがとうございます。通称「日光プロジェクト」と呼ばれておりますが、先ほどご紹介がありましたように、2015年以来日光市観光経済部観光課と日光市国際交流協会、そして宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターとが共催して実施されてきました。これまでに世界遺産や歴史に焦点を当てたテーマや栗山・湯西川地区・足尾地区などの観光開発や地域発展のプランなど様々な角度からプロジェクトが進められてきました。今年度は「奥日光の自然を活かした観光地づくりを留学生と考える」をテーマに開催されることになりました。プロジェクトとシンポジウムの実施を支えていただいている日光市関係者の皆様、多文化公共圏センター関係者の皆様のご協力に心よりお礼を申し上げます。

さて、日光は個人的にも大変好きなところで季節を問わず出かけてきました。これからの雪の季節は温泉も楽しみです、雪の中を歩いたりするというのも特別な体験で、個人的には非常に可能性のある観光地と考えています。11月に行われた奥日光地域でのフィールド調査の成果をもとに、宇都宮大学の留学生を中心としたメンバーの皆さんが研究成果を発表することになっています。奥日光はこれまでに何度かこのプロジェクトでも取り上げられていますが、コロナ禍の影響によりこれまでとは異なる視点での検討も必要になってきていると思います。どのような再発見のアイデアが発表されるのかとても楽しみにしています。

なお、第1部では、順に、宇都宮大学農学部の大久保先生、日光自然博物館解説員の森田先生、スウェーデンルント大学のKiss先生、スウェーデン農業科学大学のSalk先生に講話を担当していただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

Professor Kiss from Lund University, Professor Salk from Swedish University of Agricultural Sciences, thank you very much for your cooperation for this project.